縄文時代

名前

問1　縄文時代の遺跡である貝塚が、当時の社会や生活を研究する上で「考古学的資料」として極めて重要視されている理由として、最も適切な説明はどれですか。（2018年 香川県公立入試 類似）

1. 炭化した米や高床倉庫の跡が発見されることで、当時の人々が計画的に食料を生産・貯蔵していた社会構造を裏付けるから。
2. 集落の周囲を深い溝で囲むことで、稲作をめぐる集落間の争いがあったことや、防衛のための組織的な仕組みがあったことを示すから。
3. 巨大な石材を用いた石室や、死者とともに埋められた豪華な副葬品が発見されることで、当時の強力な権力者の存在を証明できるから。
4. 食べた後の貝殻や骨、破損した土器などが堆積しているため、当時の人々の食生活や利用していた道具の種類を具体的に知ることができるから。

問2　縄文時代の遺跡である貝塚の周辺から発見される、表面に縄目などの特徴的な文様が施された道具について、その主な使用目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2019年 群馬県公立入試 類似）

1. 大陸から伝わった青銅器や鉄器を加工するための、高温の炉として用いられた。
2. 採取した木の実などの食料を煮炊きしたり、保存したりするために用いられた。
3. 収穫した稲を長期間蓄えるための、貯蔵専用の器として主に用いられた。
4. 亡くなった人を埋葬する際に、副葬品として納める祭祀専用の道具として用いられた。

問3　縄文時代の人々が、遮光器土偶に見られるような独特な形をした土製品を多く製作した理由として、当時の社会背景から考えられる背景はどれですか。（2026年 千葉県公立入試 類似）

1. 自然の脅威や病気に対して、超自然的な力による解決や生命力の向上を祈る必要があったため。
2. 大陸との交易において、日本の特産品として輸出するための芸術性を追求したため。
3. 強力な王が国を統一し、自分の権力を誇示するために同じ形の像を大量生産させたため。
4. 金属器がまだ普及しておらず、全ての調理器具や狩猟道具を土で作る必要があったため。

問4　山形県の西ノ前遺跡から出土した、その美しい造形から「縄文の女神」として国宝に指定されている土製品についての説明として、最も適切なものはどれですか。（2019年 山形県公立入試 類似）

1. 飛鳥時代の寺院跡から出土した仏像の原型であり、鎮護国家の思想を反映している。
2. 弥生時代の遺跡から見つかった土偶であり、大陸から伝わった稲作の成功を祈るために使われた。
3. 縄文時代に作られた土偶の一種であり、当時の人々の祈りや願いが込められている。
4. 古墳時代の古墳の頂上付近から発見された埴輪であり、葬られた有力者の権威を示している。

問5　縄文時代の人々の生活や文化について、食料の確保方法とその際に用いられた道具の組み合わせとして最も適切なものを次の中から選んでください。（2019年 佐賀県公立入試 類似）

1. 大陸から伝わった青銅器や鉄器を使い、大規模な開墾を行うことで、余剰生産物を蓄えるようになった。
2. 牛馬を利用した耕作や二毛作が広まり、収穫した作物を都市の市場で売買する生活が一般的となった。
3. 本格的な稲作が始まり、収穫した米を保存するための高床倉庫や、祭祀のための銅鐸が用いられた。
4. 狩りや採集で得た食料を煮炊きしたり保存したりするために、縄目などの文様がついた土器が用いられた。

問6　縄文時代につくられた素焼きの人形で、豊かな収穫や病気の回復、魔除けなどを祈るために用いられたとされる遺物を何といいますか。（2026年 熊本県公立入試 類似）

1. 銅鐸
2. 埴輪
3. 土偶
4. 石包丁

問7　山形県の西ノ前遺跡から出土した「縄文の女神」に代表される、縄文時代に作られた土製の人形について、その名称と当時の人々が込めた願いの組み合わせとして正しいものはどれですか。（2019年 山形県公立入試 類似）

1. 勾玉 ― 魔除けや身分を示す装飾品とするため
2. 土偶 ― 豊かな収穫や安産を祈るため
3. 銅鐸 ― 稲作の豊作を願う祭りの道具とするため
4. 埴輪 ― 亡くなった王の権威を示し、供養するため

問8　縄文時代における自然環境の変化と人々の暮らしの関係について、正しい背景を説明しているものはどれですか。（2022年 山口県公立入試 類似）

1. 激しい気候変動を乗り切るために、共同体で大規模な金属器の生産を行い、近隣の集落と食料を奪い合う戦争が日常化した。
2. 温暖化により落葉広葉樹林や照葉樹林が広がり、ドングリなどの木の実が豊富になったため、採集活動が重要な食料確保手段となった。
3. 大陸と陸続きになったことで新たな家畜が持ち込まれ、広大な牧場での放牧を主体とした生活へと移行した。
4. 寒冷化によって大型動物が絶滅したため、人々は食料を求めて移動を繰り返す洞穴での生活を余儀なくされた。

問9　縄文時代の遺跡から数多く出土する、主に女性をかたどったとされる土製の像を何と呼びますか。自然の豊かな実りや、病気・けがの回復を願うまじないの儀式に使われたと考えられているものを選びなさい。（2023年 徳島県公立入試 類似）

1. 石包丁
2. 土偶
3. 埴輪
4. 銅鐸

問10　縄文時代の遺跡において、海岸や水辺に近い集落付近で見つかる、食べた後の貝殻や魚の骨、破損した土器などが堆積した場所を何といいますか。当時の人々の「ゴミ捨て場」としての性格を持ち、生活の痕跡（生活跡）を現代に伝えるものを選びなさい。（2024年 大分県公立入試 類似）

1. 環濠集落
2. 古墳
3. 高床倉庫
4. 貝塚

問11　約1万年以上続いた縄文時代の生活スタイルと、そこで使われた道具の関係について、正しい説明はどれですか。（2024年 熊本県公立入試 類似）

1. 青銅器や鉄器が普及したことで、大規模な戦争や移動生活が繰り返された
2. 大型の石造建築が造られ、それらを装飾するために精巧な土器が発達した
3. 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた
4. 文字が発明されたことで、法律や契約に基づいた高度な都市生活が営まれた

問12　日本の東北地方、現在の青森県に位置する縄文時代を代表する遺跡について、その名称と時代の組み合わせとして正しいものを選びなさい。（2023年 徳島県公立入試 類似）

1. 三内丸山遺跡 ― 弥生時代
2. 登呂遺跡 ― 弥生時代
3. 三内丸山遺跡 ― 縄文時代
4. 吉野ヶ里遺跡 ― 弥生時代

問13　青森県にある三内丸山遺跡の特徴を説明した新聞記事において、この遺跡が「縄文時代の生活観を大きく変えた」とされる理由として、当時の人々の暮らしの様子を正しく説明しているものはどれか。（2025年 北海道公立入試 類似）

1. 大型掘立柱建物跡や多数の竪穴住居が見つかり、長期間にわたる大規模な定住生活が行われていた。
2. 本格的な稲作が始まり、食料を蓄えるための高床倉庫や、周囲を堀で囲んだ環濠集落が形成された。
3. 青銅器や鉄器などの金属器が普及し、身分の差が生まれるとともに大規模なクニ同士の争いが起きた。
4. 打製石器を用いてナウマン象やヘラジカなどの大型動物を追いながら、移動生活を繰り返していた。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 食べた後の貝殻や骨、破損した土器などが堆積しているため、当時の人々の食生活や利用していた道具の種類を具体的に知ることができるから。	貝塚は単なる「ゴミ捨て場」ではなく、何層にもわたって当時の生活の痕跡が積み重なったタイムカプセルのような役割を果たしています。出土する骨の種類から、季節ごとの狩猟・採集活動の様子を分析することができ、縄文時代の人々が自然のサイクルに合わせて豊かに暮らしていた背景を裏付ける資料となっています。
問2	答え 2 採取した木の実などの食料を煮炊きしたり、保存したりするために用いられた。	縄文土器の出現は、それまで生で食べていた食料を「煮炊き」することを可能にしました。これにより、硬い木の実やアクのある植物も食用にできるようになり、食料の「保存」も容易にするなど、当時の生活を大きく安定させました。稲作が本格化し、貯蔵用としての機能がより特化していくのはのちの弥生時代のことです。また、祭祀に使われることもありましたが、主な用途は生活に密着した調理や保管でした。
問3	答え 1 自然の脅威や病気に対して、超自然的な力による解決や生命力の向上を祈る必要があったため。	縄文時代は自然の産物に依存した生活を送っていたため、気候変動による食料不足や病気は死に直結する大きな脅威でした。科学的な知識が限られていた当時、人々は「祈り」を通じてこれらの問題を解決しようとしました。そのため、女性の生命力を象徴する土偶などを通じて、食物が豊かになること（豊穣）や、部族の繁栄を願う呪術が発達したと考えられています。
問4	答え 3 縄文時代に作られた土偶の一種であり、当時の人々の祈りや願いが込められている。	「縄文の女神」という名称からも分かる通り、これは縄文時代に製作された土偶です。山形県舟形町の西ノ前遺跡から出土したこの土偶は、高さ45cmと日本最大級であり、当時の高い技術と精神文化を示しています。土偶はあくまで縄文時代の文化であり、古墳時代の埴輪とは製作された背景が明確に異なります。
問5	答え 4 狩りや採集で得た食料を煮炊きしたり保存したりするために、縄目などの文様がついた土器が用いられた。	縄文時代は、氷河期が終わり温暖な気候になったことで、木の実の採集や弓矢を用いた狩猟が盛んになった時代です。採取した植物性の食料を煮たり、保存したりするために土器が作られ、表面に縄目の文様が見られることが多いことから縄文土器と呼ばれます。稲作や青銅器、鉄器の使用は、その後の弥生時代の特徴です。
問6	答え 3 土偶	縄文時代につくられた素焼きの人形は土偶と呼ばれます。豊かな収穫や魔除けなどを祈る道具として用いられました。古墳時代につくられた埴輪や、弥生時代につくられた銅鐸との違いを押さえることが大切です。
問7	答え 2 土偶 ― 豊かな収穫や安産を祈るため	縄文時代には、女性の姿を象った土偶が数多く作られました。これらは、自然の恵みによる豊かな収穫や、新しい命の誕生（安産）を願う呪術的な道具として使われたと考えられています。選択肢にある埴輪は古墳時代、銅鐸は主に弥生時代に関連する遺物であり、時代や目的が異なります。
問8	答え 2 温暖化により落葉広葉樹林や照葉樹林が広がり、ドングリなどの木の実が豊富になったため、採集活動が重要な食料確保手段となった。	地球の温暖化は植生に大きな影響を与え、日本列島にはクリ、クルミ、ドングリなどの実をつける豊かな森林が形成されました。縄文時代の人々は、これらの木の実を採集し、アク抜きなどの加工を施して食用にする技術を確立しました。また、入り組んだ海岸線（リアス海岸）が形成されたことで、魚介類も豊富になり、貝塚が作られるほど漁労も盛んになりました。この安定した食料事情が、竪穴住居による定住生活を支える要因となりました。
問9	答え 2 土偶	縄文時代には、自然の恵みを祈ったり、病気やけがの回復を願ったりする儀式が行われていました。その際に使われたのが土偶であり、その多くが女性の姿を模していることから、生命の誕生や収穫への祈りが込められていたと推測されています。これに対し、埴輪は古墳時代の古墳の周囲に並べられたものであり、時代が異なります。
問10	答え 4 貝塚	縄文時代の人々が日常の生活で出た不要物を捨てた場所です。単なるゴミ捨て場としての機能だけでなく、食べ残された骨や貝殻から、当時の人々がどのような動植物を食べていたか、あるいは当時の気候や海岸線の位置がどこにあったかを知るための貴重な史料となります。
問11	答え 3 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた	縄文時代は、氷河期が終わり温暖になった環境に適応した時代です。すばしっこい小動物を狩るための弓矢や、木の実を加工するための磨製石器、そして食料の加工・保存を可能にした土器など、新しい道具が登場したことで、一定の場所に留まって暮らす定住生活が可能になりました。
問12	答え 3 三内丸山遺跡 ― 縄文時代	青森県で発見されたこの遺跡は、縄文時代における日本最大級の集落跡です。大型の掘立柱建物や多数の竪穴住居の跡が見つかっており、当時の定住生活の様子を詳しく伝える重要な史跡です。佐賀県の吉野ヶ里遺跡や静岡県の登呂遺跡は、いずれも弥生時代の代表的な遺跡であり、縄文時代には含まれません。
問13	答え 1 大型掘立柱建物跡や多数の竪穴住居が見つかり、長期間にわたる大規模な定住生活が行われていた。	三内丸山遺跡は、縄文時代の人々が長期間にわたって安定した定住生活を営んでいたことを証明した遺跡である。稲作や環濠集落、金属器の使用は弥生時代の特徴であり、吉野ヶ里遺跡などに代表される。また、大型動物を追う移動生活は旧石器時代の特徴であるため、縄文時代の定住生活という特徴を正確に捉える必要がある。